

人権だより

No.336(2026.6)

「人生は喜ばせごっこ」

総務課 渡辺 達也

誰もが知る国民的アニメのテーマソング「アンパンマンのマーチ」は誰もが歌えるほど親しみがあります。しかし、あまりこの歌の歌詞について考えながら聞いたことはないかもしれません。この歌を作詞したアンパンマンの生みの親でもあるやなせたかしさんは、なぜ正義のヒーローに「あんぱん」を選んだのでしょうか。正義の味方とは格好のいいヒーローと思われがちの世の中で、やなせさんは「本当の正義」というものは、決して格好のいいものではない。」と考えました。本当に困っていることと戦ってこそその正義のヒーローだと。戦争を経験したやなせさんからすると、一番耐えられないのは「飢え」だそうです。だから自分が傷ついても食べ物を与えるアンパンマンが生まれたそうです。



みなさんにとってうれしいことって何ですか？みなさんの生きる喜びって何ですか？少し考えてみてください。やなせさんの言葉で、私もモットーにしている言葉があります。「人生は喜ばせごっこ」。人間の一番の喜びは、誰かを喜ばせることにあります。今みなさんが想像した喜びには、きっと誰かの存在があるはずです。あなたの周囲の大好きな人のためならば、自分の胸の傷(多少の犠牲)がいたんでもいいじゃないか。そんなメッセージが込められているでしょう。(もちろん自分のことばかり犠牲にする必要はありません。)家族や友達、クラス、学校の中で喜ばせあいの輪が広がれば、きっと世界は明るく平和になることでしょう。そんな存在に私はなりたいです。そんな気持ちで人と接していきたいです。

やなせたかしさんは「アンパンマンのマーチ」の歌詞以外にも、生きるうえで大切なものを温かみのある言葉でたくさん語っています。

本校の図書館にも、「アンパンマンの遺書」岩波書店

「やなせたかし 明日をひらく言葉」PHP研究所

「やなせたかし詩集 てのひらを太陽に」河出書房新社 など、5冊

所蔵しているので、興味があったら読んでみてください。

さあ、みなさん、左右に座っている友達を見てください。どんな表情をしていますか。今日、隣に座っているクラスの友達を喜ばせてみませんか？

【人権委員の声】

- 私はこの文章を読んで、「人生は喜ばせごっこ」という言葉がとても印象に残りました。最近、人との関わり方について考えることがあったので周りの人を喜ばせたり笑顔にしたりすることの大切さを改めて感じました。また、アンパンマンが自分が傷ついていても困っている人を助ける理由を知って本当の優しさとは見返りを求めることなく相手のことを思って行動することなのだと思います。私は、周りの人に支えられていると感じることが多いので、今度は自分が誰かを支えたり、笑顔にしたりできる人になりたいと思いました。
- 人を喜ばせることが人生の大きな喜びになるという考え方に共感しました。相手が喜んでくれると、なぜだか、私もうれしい気持ちになることが多々あります。本当の優しさとは、見返りを求めず、誰かのために行動することだと感じました。また、「人生は喜ばせごっこ」という言葉がとても印象に残りました。家族や友達を笑顔にすることで、自分も幸せな気持ちになります。これからは、自分のことだけでなく、周囲の人の気持ちを考えながら行動し、私を笑顔にしてくれた人以上の人たちを笑顔にできるような、周りの人に喜びを上げられる人になりたいです。
- 私はこの文章を読んで自分がうれしいだけでなく、周りの人も喜ばせることも大切だということは知ることができました。また、アンパンマンには「困っている人を助けたい」という思いが込められていることを初めて知り、やなせたかしさんの考え方に感動しました。これからは家族や友達を笑顔にできるような行動を心がけていきたいです。
- 本当の正義というものは、決して格好のいいものではないという言葉聞いて、確かに劇的にかっこいいものもあるけど、地味かもしれないけど正義を貫くようなかっこよさもある気がしました。私はあまり他の人を喜ばせようと思って行動したりしませんが、喜びの中には誰かの存在があると考えると多少辛くても頑張れると思いました。歓喜の涙というものを流すのは確かに人間だけなのかもと思うと、泣き笑いがまた少し違って見える気がしました。

以上、5年生人権委員の感想でした。

【やなせたかしさんと彼が生み出したキャラクターについて】

やなせさんは幼少期育った高知県を「心の聖地」とし、アンパンマンミュージアムを建設したことはご存じの方多いと思います。やなせさんはその他にも県の「くろしおくん」、よさこい祭りの「なるこ君・なるるちゃん」、駅員がモデルの「ごめん えきお君」など、50以上の愛らしいご当地キャラクターを無償で描き下ろしました。さらに、「四国の子どもたちに本物のアンパンマンに会わせてあげたい」というやなせさんの願いから、2000年に高知を結ぶ JR 四国の路線でアンパンマン列車は誕生しました。今では四国全域を元気に走り、全国の子どもたちに夢を届けています。

アンパンマンに登場するキャラクターたちのユニークな特徴には、やなせさんの「戦争体験」から生まれた、深い人権への思想や優しさが込められています。いつもいたずらをする「ばいきんまん」に対し、アンパンマンは「ばいきんまんという存在そのもの」を全否定したり、消し去ろうとはしません。アンパンマンが怒るのは、あくまでばいきんまんがした「いたずら（悪い行為）」に対してです。相手の人格や存在自体は認め、「行為をいさめるが、相手を排除・差別しない」という姿勢は、現代のいじめ防止やハラスメント防止、多様性を認め合う人権の考え方に深く通じています。